

知っているようで知らない洗濯の基本を再チェック！

普段は何気なくしている洗濯ですが、皆さんは正しい洗濯方法をご存知ですか？
毎日着るものだからこそ、正しく洗うことが大切です。
ここで洗濯の基本を再確認して、お気に入りの服を上手に手入れしましょう！



WASHING

正しい洗濯の方法とは？

《仕分ける》 色移りや汚れの再付着を起こさないために、洗濯物をきちんと仕分けしましょう。

Check List 2 仕分けのポイント

- 濃い色と淡い色を分ける→長年着込んで色落ちしないようなものは一緒に洗ってもよい。
- 特に汚れのひどいものを分ける→下洗いで汚れを落としてから一緒に洗う。
- 初洗い（特に濃い色）の洋服を分ける→事前に色落ちチェックして大丈夫そうなら一緒に洗う。
- 手洗い表示のデリケート品を分ける→洗濯ネットを使って一緒に洗う。

《適量で洗う》 一回で洗う洋服の量は洗濯槽の7～8割くらいの容量にしましょう。また、洗剤量は適量を守るのが絶対です。多く入れたからといって洗浄力が上がるわけではありません。



WASHING

洗濯物の生乾き臭を防ぐ

生乾き臭を防ぐためにおすすめの洗濯法は「浸け置き洗い」です。浸け置き洗いとは、洗濯機洗いの前に洗剤液を入れた洗面器などに衣類を浸し、しばらく置いて軽くすすぎ絞ってから普通に洗濯機洗いをするものです（他の洗濯物と一緒にOK）。生乾き臭がってしまった時の対処法としても効果があります。



WASHING

干すときは裏返し干しに！

室内干しをする場合、干す場所は湿気の溜まりやすい床の近くでなく、なるべく高いところへ。干し方は、乾きにくい縫い目対策に「裏返し干し」がおすすめです。干す際に、布どうしが接触しないようにすき間を空けましょう。また、エアコンのドライや除湿器、扇風機を使うのも効果的です。



WASHING

冬物衣類の収納前にしまい洗い

品質表示タグを確かめて、家庭で水洗いができるものは家庭で洗うほうが経済的で効率もいいですね。一度でも袖を通した服は、収納する前に汚れを落とす「しまい洗い」をしましょう。例えば、ニットのような伸縮性のある洋服は型くずれや縮みを予防するために、おしゃれ着用洗剤を使って弱水流コースで洗いましょう。ダウンジャケットやコートも、はじめにおしゃれ着用洗剤で服全体を濡らしてから「手洗い」することをおすすめします。また、毛布を洗濯機で洗う場合は、必ず「洗濯ネット」を使用してください。汚れている面を外側にし、洗濯ネットの大きさに合わせてジャバラ状にたたむのがポイントです。



監修：毎田 祥子（まいだ しょうこ）

家事アドバイザー、ライター&コラムニスト。企業広報や生協で生活用品や全国の食品生産者へ取材を重ね、独立。ハウスクリーニングやハーブ、アロマ等の資格も生かしたmix家事を提案。著書「ラクしてちゃんとした暮らしができる「朝だけ家事」」、監修「おばあちゃんの歳時記暮らしの知恵」等。新聞雑誌等マスコミ出演多数。

記事監修：
Lidea https://lidea.today/articles/1134#lida_link13
お洗濯.net <https://www.o-sentakunet/washer/#a2>
知らないソン！お洗濯のコツ <https://panasonic.jp/wash/special/ehyouji.html>
イヤ〜な「生乾き臭」をしっかりと落とす洗濯のコツ <https://www.msn.com/ja-jp/lifestyle/life/>



WASHING

普段からの手入れをしっかりと！

洗濯の頻度を少なくすると大切な衣類は長持ちします。そこで、大切な服に食べこぼしのシミを作らないように注意するとともに、日頃からこまめにメンテナンスすることをおすすめします。

Check List 1 メンテナンスのコツ

- 着用後には洋服用ブラシで丁寧にブラッシングしてホコリを落とす。
- 脱衣後すぐにしまわず、ハンガーなどに吊るして湿気を飛ばしてから収納する。
- シャツなどの襟にベビーパウダーをつけておくと皮脂を吸収してくれるので効果的。



WASHING

ひどい汚れは下洗いをする

襟や袖の汚れ、シミがある場合、下洗いでしてから洗濯すると汚れ落ちが断然違います。

黄ばみや臭いの主な原因は、衣類に残っている汗や皮脂汚れです。汗汚れの気になる脇下などに、おしゃれ着用洗剤や液体洗剤などを直接塗ってから洗うことをおすすめします。食べこぼしのシミには、台所用中性洗剤を染み込ませることが第一段階です。それでも落ちなければ液体酸素系漂白剤を直接塗ってから洗いましょう。



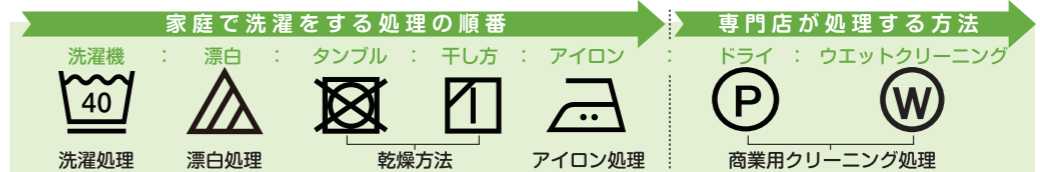
WASHING

洗濯の前に品質表示を確認する

どのように洗ったらよいか？ 塩素漂白はできるか？ アイロンがけできるか？ ドライクリーニングできるか？ など、洗濯する前には、洋服に付いている品質表示タグを必ず確認しておきましょう。

洗濯に関しては、家庭で水洗いできるかどうかが必要なポイントです。桶に水を張ってあるマークの上に赤い×印が描かれている場合は、水洗い不可の表示です。

<参考例>品質表示タグ



●洗濯図柄

家庭での洗濯が可能かどうか、中の数字は「液温の上限」を表示。見本の場合は、家庭で「液温は40℃を限度とし、洗濯機で弱い処理が出来る」です。

●漂白図柄

塩素系漂白剤が使える、酸素系漂白剤が使える、漂白できない、の3段階を表示。見本の場合は「酸素系漂白剤の使用はできるが塩素系漂白剤は使用禁止」です。

●タンブル乾燥図柄

家庭での「タンブル乾燥」(洗濯物を回転させながら温風で乾燥)が可能かどうかを表示。見本の場合は「タンブル乾燥禁止」です。

●自然乾燥(干し方)図柄

衣類の干し方を表示。見本の場合は「日陰のつり干しがよい」です。

●アイロン図柄

温度の高さをマークの中の「・」の数で表示。見本の場合は「底面温度150℃を限度としてアイロン仕上げができる」です。

●ドライクリーニング図柄

「ドライクリーニングができる・できない」そして、ドライクリーニングの種類を表示。見本の場合は「パークロロエチレン及び石油系溶剤による弱いドライクリーニングができる」です。

●ウエットクリーニング図柄

有機溶剤を使わずに、専門家による特殊な技術で行う水洗いが可能かどうかを表示。見本の場合は「ウエットクリーニングができる」です。